



最初は簡単なピンシャン体操からスタート
円になって隣の人と同じ動作をするはずがバラバラになって大笑い。

地域の神社でも「昔は賑やかなお囃子の中、お神輿を担いで楽しかった」と思い出話で盛り上がり、お囃子「嫩」のみなさんは地域に残ったお囃子を絶やさない活



7 円になって隣の人と同じ動作をするはずがバラバラになって大笑い。

団体の特徴は会員が全て女性。平成20年度から活動を開始した吉岡交流会は毎月1回のレクレーションを合言葉に、会員がそれぞれの月を担当して企画を行っています。地元の大豆を使った豆腐作りや廃油を使った石けん作り、木工教室や門松作りなど企画のレパートリーは豊富。自治会の協力関係もしっかりとっていて、集落内の参加の呼びかけは回覧板で行います。

取材を行った1月23日(土)は、高齢者を対象としたピンシャン体操を行いました。この体操は高齢者の足腰がピン、シャンとなるように音楽に合わせて楽しく手足を動かす体操で、会員の方々が講習会に参加して習得したものです。最初は高齢者の方々にリフレッシュしてもらうために、土佐井地区で活躍中のお囃子「嫩」による演奏会。和やかな雰囲気の中、指導者の橋本浩さんの司会のもと計5曲を伸び伸びと演奏しました。9月に入門した1年生と2年生の二人も笛の演奏を初披露し、皆さんの拍手をいただいています。吉岡の神社でも「昔は賑やかなお囃子の中、お神輿を担いで楽しかった」と思い出話で盛り上がり、お囃子「嫩」のみなさんは地域に残ったお囃子を絶やさない活

活動で広げる笑顔の輪
体操を終えた皆さんは、「楽しかった」「また、やってほしい」と大好評。近所に住んでいてもなかなか顔を会わせる機会が少ないので、吉岡交流会の活動で交流の場所が生まれたことを大変喜んでいました。会員の皆さんは、これを機会に毎月1回のピンシャン体操を行う「吉岡ピンシャンクラブ」を設立したそうです。

吉岡交流会の取り組みは、単にレクレーションを行うだけでなく、高齢者を大切に思う気持ちを子どもたちにも伝え、今後も集落に「笑顔」が絶えないように頑張っているようでした。他の集落でも、このような活動をやってみたい方は、ぜひ、平成22年度からの地域づくり活動事業に参加してみませんか。

合言葉は「毎月1回のレクレーション」

お囃子「嫩」の演奏やピン、シャン体操でリフレッシュ！

動も大切なことを実感していません。ピンシャン体操は、負担にならないように座ったままできるものを選び、最初は簡単な動作から徐々に難しくなっていくと、皆さんの手音がバラバラに。その度に大きな笑い声が沸きあがりとても楽しい雰囲気になっていきました。体操の前には暖房を入れていた公民館も皆さんの熱気で汗が出はじめスイッチをオフに。

今後も集落に「笑顔」が絶えないように

笑顔の輪



1 みんなで記念撮影



昔は集落内で、子どもやお年寄りが集う機会がたくさんあり、地域住民一人ひとりの結びつきが自然にできていました。しかし、少子高齢化による人口減少により今では、集落内で交流の機会が減ってきているように感じます。そんな中、吉岡地区には公民館を拠点に子どもから高齢者まで、交流を目的にレクレーション活動を行っている「吉岡交流会」があります。

吉岡地区に広がる笑顔の輪



2 代表の矢岡由美子さん 3 吉岡交流会の皆さん 4 お囃子「嫩」の演奏 5 でんでんむしの唄を歌いながら体操を教える会員の皆さん

地域づくり
クローズアップ



4 ふさを編む巧みな技術 5 大平樂に運ばれてきた巨大しめ縄 6 玄関前に飾り付け作業
7 西友枝ニコニコ会の皆さん(「しめ縄を見た方々が幸せになるようにと願いを込めました」と代表の藤本正吾さん)

計3回行われ、3本の大きな縄を作りました。最後に、力を合わせて3本の縄を編み上げて、見事な巨大しめ縄が完成しました。
完成したしめ縄は12月16日(水)に大平樂にトラックで運ばれ、飾りつけられました。太くてしつかり編み上げられたしめ縄は、大平樂の玄関前を堂々と飾り、お客さんを温かく迎える準備ができました。

楽しみ、喜びを伝える地域づくり活動を
西友枝ニコニコ会は、代表者の藤本正吾さんを筆頭に長年暮らしてきた地域のために、何かできないかと、メンバーが協力しながら活動を行っています。長年培ってきたしめ縄づくりの技術も年配者だからこそできる地域活動。ニコニコ会は自分たちの持ち味を出し地域づくり活動を楽しみながら続けます。

地域づくり
クローズアップ

職人の技



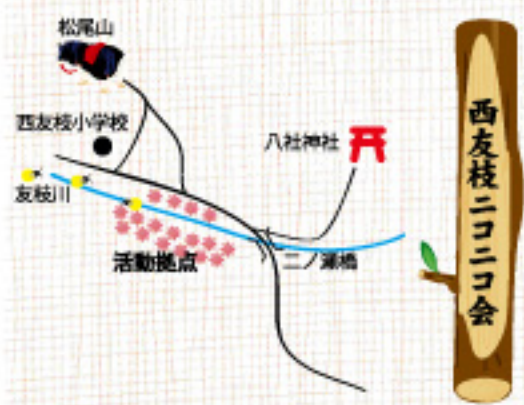
1 完成した3本の縄



2 友枝川沿いに彼岸花の球根植え作業。ここがニコニコ会の活動拠点 3 代表者の藤本正吾さん

職人技を地域に活かす

西友枝地区を流れる友枝川(二ノ瀬橋付近)沿いの美しい景観を残すために、コスモスの種を蒔いたり、草刈を行っているメンバーの皆さん。会員のほとんどが60代後半から70代の年配者ですが、若者には負けない行動力とボランティア精神を兼ね備えた職人技集団です。



幸せの願いを込めて 大平樂のしめ縄づくり

取材を行った12月10日(木)は、大平樂のしめ縄づくりを行っていました。秋にとっておいた藁(わら)を束ね、

木槌で叩いてやわらかくし、最初は細く、段々太く、最後にまた細くと力を込めて「ヨイシヨ、ヨイシヨ」のかけ声とともに締め上げていきました。でき上がった縄の長さは6.7mもあり、カメラのレンズに収めるのに一苦労。この縄を作る作業は合

2 友枝川沿いに彼岸花の球根植え作業。ここがニコニコ会の活動拠点 3 代表者の藤本正吾さん



子どもたちと そば打ち体験

取材を行った12月26日(土)は、安雲地区の子供会とオーイげんき会との交流会が行われていました。子どもたちにはそば打ちの体験と昔の遊びを伝承しようとして実施したこの企画は、会員を含め33人の参加があり大盛況。

参加した子どもたちは、そば粉と小麦粉に水を混ぜ合わせ少しづつそばを練っていきましました。腕まくりをして必死に練っている子どもたちの姿に、オーイげんき会の指導にも熱が入り上手に生地ができてきました。



次は麺棒で均一に伸ばしていく作業を開始。力がある作業で低学年の児童は手助けをしてもらいながら上手に生地を伸ばし、最後に麺が均等に切れる機械で慎重に麺を切りました。そば打ち体験を終えた子どもたちは、満足気に笑みを浮かべ早く食べたそうでしたが、昼食時にはまだ時間があつたので、以前理科の先生をしていた渡辺和照さんのコマ回しの実験がスタート。コマに模様を書いたものを回すとどんなふうに見えるかを、数種類のコマを準備して実験しました。子どもたちは顔を乗り出して実験に夢中。子どもを飽きさせない、会員の皆さんの工夫には頭が下がります。

自分で作ったそばと 手づくりのおもちや

昼食は頑張って作ったそばと会員のみなさんが準備した新米のおにぎりと自家製の漬け物。「いただき

高齢者と子どもをつなぐ 福祉ボランティア

安雲地区の高齢者外出支援と子どもの安全パトロールや交流活動を行っているオーイげんき会。最近では、そば打ちを習得したことから、町内小中学校等に出前講座に行くこともあり、活動範囲が広がっています。



きまーす！」の発声の後すぐに「おいしい」の歓声が連発。オーイげんき会の皆さんはほっとした様子で、そば打ちにまたひとつ自信を付けました。

昼食の後、昔の遊びを教えるために準備したのは、皿まわしと杉鉄砲。皿皿にベットボットの蓋を付けてたものを上手に回そうと、会員のみなさんがお手本を見せようとしましたが、なかなか回りません。子どもの方が上手に回し、逆に教えられる始末に思わず苦笑いする場面もありました。杉鉄砲は杉の実がちょうど入るくらいの細い竹を準備して、杉の実を詰めて押し出すと、「パチン」という音がして飛んでいきます。子どもたちは昔の遊びに夢中になりました。

子どもたちに知恵を 高齢者に元気を

オーイげんき会は「高齢者と子どもをつなぐ福祉ボランティア」をテーマに活動を行っています。高齢者と子どもが交流する場をつくることで、子どもたちは知恵を学び、高齢者は子どもから元気をもらう、とても良い環境ができています。

3 そば粉と小麦粉を混ぜて生地作り 4 教えてもらいながら生地を上手に伸ばします 5 手を切らないように気をつけてそば切り中 6 手際よく盛り付けを行う女性会員の皆さん 7 皿まわしで楽しむ子どもたち 8 杉鉄砲にチャレンジ

1 コマ回しの実験開始 2 代表の笹尾忠義さん